

「第4期綾部市障害者計画（案）」に対する主なご意見の概要及びご意見に対する考え方について

ばんごう 番号	がいとう 該当 ページ	こうもく 項目	いけん がいよう ご意見の概要	いけん たい し かんが かつ 意見に対する市の考え方
1	16p～ 22p	だい2しょう 第2章 2 あんけーと アンケート ちょうさ 調査からみえ る綾部市の げんじよう 現状	ちょうさ しゅほう ちょうさたいしょうしゃ ほんにん ほごしゃとう べつ 調査の手法、調査対象者（本人、保護者等の別）、 ききとりちょうさ ばあい ちょうさいん しかく ほけんし かんごし 聞き取り調査の場合、調査員の資格（保健師、看護師 などの別）はどのようなものか、本文中に調査の しゅほうとう ちゅうが 手法等を注書きしていただきたい。	あん けー と ちょうさ てちょうしよじしゃとう ゆうそうそうふ ゆうそうかいしゅう じっし アンケート調査は、手帳所持者等に郵送送付、郵送回収により実施しまし た。基本的に障害者本人を調査対象としていますが、一部主な介護者に問う 質問があります。 また児童については児童の保護者を調査対象にしていま す。 参考資料としてアンケート結果と共に調査の手法を掲載する予定です。
2	23p～ 30p	だい2しょう 第2章 ぜんけいかく の 3前計画 の ひょうかおよ かい 評価及び課題	ほんし しょうがいじしゃ とりまくだい あんけーと 「本市の障害児者を取り巻く課題を、アンケート ちょうさけつ か じぎょう じっしじょうきよう ぜんけいかく しゅようぶぶん 調査結果、事業の実施状況から、前計画の主要部分 ごと整理しました。」と断わり、例えば「主要部分 1. 住みよいまちづくりの推進」では数値指標による 施策や事業評価が行われていない。専らアンケート 結果や綾部市障害者施策推進協議会等機関の意見 によって課題提起が行われていて評価手法に疑問 がある。そのため、主要部分（施策）及び主要部分を 構成する事業につき数値目標を設定、その達成度を 計測し評価を行うなど市民、納税者の納得が 得られる評価手法を導入するとともに、庁内に関係 各課係や市民等からなるプロジェクトチームを 立ち上げ評価手法を検討するなどその透明性、 信頼性にも配慮していただきたい。	しょうがい しゅべつ ていど ねんれい せいかつず たいる おかれて かんきよう しょうがい 障害の種別や程度、年齢や生活スタイル、置かれている環境などにより障害 のある人一人ひとりの課題は多様であり、障害福祉施策なども利用が増える ことが一概に良いこととも言えない場合もあることから、数値目標の設定は せず、障害のある人自身の意見を大切にし、施策についても評価いただきたく、 本計画でも積極的に障害のある人や関係者の声をそのまま掲載していま す。
3	24p～ 29p	だい2しょう 第2章 ぜんけいかく の 3前計画 の ひょうかおよ かい 評価及び課題	かんけいだんたい あやべししょうがいしゃしきくすいしんきょうぎかい およびあやべし 関係団体（綾部市障害者施策推進協議会及び綾部市 しょうがいしゃらいきまじりつしえんきょうぎかい いけん ききょう 障害者地域自立支援協議会）の意見は貴重であるの で、評価結果に基づく事業の新規採択や事業の改善 等に活用すれば一層、活きると思う。	こんご りょうきょうぎかい いけん そんちよう しきくすいしん しょうぞん 今後も両協議会の意見を尊重し施策推進にあたっていく所存です。

4	31p～ 51p	だい3しょう 第3章 ぶんやべつしきく 分野別施策 の きほんけいかく 基本計画	こんじけいかくあん 今次計画案のように分野横断的な事業で構成され る施策については、ぶしょかん 部署間の連携や事業費等コスト のめんだい 問題などからその実効性に配慮を欠き、かだいいかいけつ 課題解決 がすまな いげんいん 進まない原因のひとつと思う。そのような状況の もと、たとえばこうきようけんちくぶつ もと、例えば公共建築物のバリアフリー化など、 こんご 今後ともおなじような課題が繰りかえしていき 上がる。そこで、ぶんやべつしきく 分野別施策の施策推進費を明示する とともに、しきくぶらんち 施策ブランチ(事業)の事業費を優先配分 するなどのちこうじる 措置を講じるべきである。	しょうらい 将来にわたる施策分野ごとの予算措置や配分等を計画に盛り込むことはで きませんが、くに 国・府などの補助事業の積極的活用などにより公共施設等の ばりあふりーか バリアフリー化にもつとめて 努めてきているところであり、こんご 今後セツキョクテキ 積極的に とりくみ 取り組みたいと考えています。
5	6 p 50 p ～ 51 p	だい1しょう 第1章 けいかく 2 計画にお けるじゅうてんかだい 重点課題 とりゅういん と留意点 (2)「しゅわげんご 手話言語 のかくりつおよび 確立及び たよう 多様なコミュ ニケーション しゅだん 手段の促進に かんするじょうれい に関する条例 の すいしん 推進 だい3しょう 第3章 じょうほう 9 情報アクセ シビリティの こうじょう 向上 及び いし 意思 そつうしえん 疎通支援 の じゅうじつ 充実 (1) ～ (3)	もくひょうち 目標値やしんきじぎょう 新規事業の導入時期を示してもらいたい。 また、ほんけいかく 本計画のねんどじっしけいかく 年度実施計画たるしょうがいしゃふくしけいかく 障害者福祉計画 (しょうがいしゃふくしきーびす 障害者福祉サービス)をみてもじんざいいくせい 人材育成やはけん 派遣のじつせき 実績はふじゅうぶん 不十分(たいみこみりょう 対見込量)と思料するので、しりょう 推進策に すいしんさく つきばっほんみなおし 抜本見直しを行いおこないきほんけいかく 基本計画でしめ 示してもらいたい。	けいさい 掲載のじぎょう 事業はすでに実施している事業やこんねんどうかいし 今年度開始した事業ばかりです が、ねんねんじゅうじつ 年々充実がはかれるようにつとめて 努めていくところです。 しゅわつうやく 手話通訳やようやくひっきとう 要約筆記等のいしそつうしえん 意思疎通支援はりようしや 利用者のせいかつすたい 生活スタイル等によりそ のりようかいすうとう 利用回数等がへんどう 変動するものであり、はけん 派遣回数などをすうちもくひょう 数値目標としてせってい 設定する ことはな 馴染まないかんがえて います。これからいしそつうしえん 意思疎通支援はひつよう 必要な方が 必要な時にひつよう 提供できるとき よう努めま

6	6 p 50 p ～51 p 31 p～ 51 p	だい 1 しょう 第 1 章 けい かく 2 計画にお ける 重点課題 と 留意点（2） 「手話言語の 確立及び多様 なコミュニケ ーション手段 の促進に 関する条例の 推進 だい 3 しょう 第 3 章 じょうほう 9 情報アクセ シビリティの こうじょう および い し 向上及び意思 そつう し え ん 疎通支援の じゅうじつ 充実（1）～ （3） だい 3 しょう 第 3 章 ぶん や べつ し さ く 分野別施策の き ほん けい かく 基本計画	し ぎ かい ら い ぶ ちゅうけい さいせい る ぐ が し ゅ わ つ う や く 市議会のライブ中継、再生録画につき、手話通訳の そうにゆう し しょうしゃ で い す ぶ れ い せ つ ち し ゅ わ 挿入、市庁舎について、ディスプレイを設置し手話 などによる窓口案内を行うなど真の つ な が り あ え る きょうせい し ゃ かい こうちく じんりょく 「つながり合える共生社会」の構築につき尽力して ほしい。	し ぎ かい ぼうちよう き ほう おうじ し ゅ わ つ う や く ようやく ひ つ き じ つ し 市議会の傍聴においては希望に応じ手話通訳・要約筆記を実施することと しています。 市では手話ができる職員が3名おり、直接手話での窓口対応 をしています。 こんご し ゅ わ し しょう ちょうかく げん ご しょうがい かた ご き ほう そ っ て たいおう 今後も手話を使用する聴覚言語障害の方のご希望に沿って 対応していく所存です。
	54 p	だい 4 しょう あ や べ し 第 4 章 綾部市 しょうがい し ゃ けい かく 障害者計画の すいしん 向 け て 推進に向けて けい かく 1 計画の すいしん たい せい 推進体制	けい かく すいしん たい せい くに ふ けい かく じ つ し 計画の推進体制について、「・・・国・府の計画実施 じょうきよう ふ ま え つ つ ぜんちようてき そうごうてき と り く み お こ な う 状況を踏まえつつ、全庁的に総合的な取組を行うと ともに、しょうがい ひと かん する し さ く そうごうてき とともに、障害のある人に関する施策の総合的かつ けい かく て き すいしん あ や べ し しょうがい し ゃ し さ く すいしん き ょう 計画的な推進について、「綾部市障害者施策推進協 ぎ かい い けん き ょう ぎ へ な が ら すいしん 議会」の意見と協議を経ながら推進を図ります。」の き じ ゆ つ ぜんちようてき そうごうてき と り く み し す る き ょう ぎ 記述につき、全庁的、総合的な取組に資する協議の たい せい し く み ほんけい かく あんさく せい お こ な わ れ た 体制と仕組み、本計画案作成のために行われた ぜんちようてき かい ぎ お よ び あ や べ し しょうがい し ゃ し さ く すいしん き ょう ぎ かい 全庁的な会議及び綾部市障害者施策推進協議会と き ょう ぎ とう て い ま お よ び かい いう とう じ つ せ き の協議等のテーマ及び回数等の実績をうかがいま す。	ぜんちようてき そうごうてき き ょう ぎ たい せい し く み ひ ご ろ そ し き な い れん けい 全庁的、総合的な協議の体制と仕組みについては、日ごろの組織内の連携 として取り組んでいます。その中で個々の課題に応じて関係部課で構成する と り く ん で な か こ こ か だ い かんけい ぶ か こうせい プロジェクトチームを組織して検討を進めているところです。 ぶろ じ え く と ち い む そ し き けんとう す す め て 本計画策定にあたっては、綾部市障害者施策推進協議会、綾部市障害者地域 ほんけい かく さ く て い あ や べ し しょうがい し ゃ し さ く すいしん き ょう ぎ かい あ や べ し しょうがい し ゃ ち い き 自立支援協議会からの意見をいただくとともに、りょうきょう ぎ かい こうせい さ く て い 自立支援協議会からの意見をいただくとともに、両協議会から構成する策定 いいん かい かい さい けんとう か さ ね た ちょうない かんけい ぶ か こ べ つ き ょう ぎ 委員会を開催し検討を重ねたほか、庁内でも関係部課との個別の協議を か さ ね て 重ねています。 さ く て い い いん かい 3 か い かい さい り ょう き ょう ぎ かい つ う ねん て き し さ く 策定委員会は3回開催しましたが、両協議会については通年的に施策や けい かく ひ ょう か けんとう い けん ち ょう し ゅ お こ な っ て ほんけい かく さ く て い お こ な わ れ た 計画の評価、検討、意見聴取を行っているため、本計画策定のために行われた かい いう く べ つ し ゅ う けい こんなん ねん 2 か い て い ど かい さい 回数を区別して集計することは困難です。（年2回程度開催しています。）

8	54 p	だい4しょう あやべし 第4章 綾部市 しょうがいしゃけいかく 障害者計画 の すいしん む 推進に向けて じんざいいくせい 2 人材育成・ かくほ 確保	じんざいいくせい かくほ 人材育成・確保について、「・・・特に障害福祉 サービス の 従事者 や 意思疎通支援事業 の 担い手、 かくしゆほらんてい あ 各種ボランティア などの 人材確保 が 深刻な 課題 と なっており、これらの 仕事 の 魅力発信 や 働きやすい かんきょうづくり など、多方面 にわたる 施策 の 展開 に つとめます。」の記述につき、ボランティア などの 確保 が課題解決 の 重要な 担い手 になることはわかるが 市の 役割 もまた 重大 と 存じます。そこで 常時の ぎょうむりょう れびゅう ししょくいんはいち みなおし 業務量 レビュー による 市職員配置 の 見直し など によって、必要な 部署 に 人材 を 投入 する 努力 を 示すこ とも大切 と思います。今次 計画策定 のため 主管課 へ きどうてき しょくいんはいち ぶろ じえくとち へんせい 機動的な 職員配置 や プロジェクトチーム の 編成 など かんきょう 環境づくり は なされましたか、うかがいます。	ししょくいん とくべつ しょくいんはいち 市職員の特別な職員配置などはしていませんが、策定委員会から意見をい ただいたり、庁内においても課題ごとに必要に応じ関係課と十分協議を かさねてとりくんで 重ねて取り組んでいるところです。
9	55 p	だい4しょう あやべし 第4章 綾部市 しょうがいしゃけいかく 障害者計画 の すいしん む 推進に向けて じんざいいくせい 3 人材育成・ かくほ 確保	すいしんじょうきょう ていきてき てんけん こう てきかく きじゆつ おもう 推進状況 の 定期的な点検 の 項は 的確な 記述 と思う。 「本計画 の 進捗状況 の 管理・評価 については、計画 を立て (Plan)、実行 (Do)、その進捗状況 を 定期的に はあく ひょうか うえ 把握・評価 した上で (Check)、その後の 取組 を 改善す る (Action)、一連 の PDCA サイクル の 構築 に つとめます。」の記述について、特に Check 体制 の 現状、 だい3しょう ぶんやべつ しさく きほんけいかく すうちもくひょう 第3章 分野別施策 の 基本計画 において 数値目標 を せってい しさく きやっかんてきひょうか か の う 設定し、施策 の 客観的評価 が 可能なものにする、さ らに本計画 全体 の 評価 (Check) につき 客観的評価 が か の う しす て む かいはつ 可能なシステム を 開発 して いただきたい。特に 施策 横断的な 計画 では 重要 と思います。	たいせい げんじょう チェック体制の現状としては、障害者施策推進協議会に報告し、意見をい ただいているとともに、課題の発生時や関係団体からの要望や意見が だされるときに計画に沿って施策が実施できているかを点検しているところ です。客観的な評価については障害のある当事者の満足度を重視したいと かんがえて こんご かくせいど さーびす りようしゃ こえ ていねい ききとり 考えており、今後も各制度やサービスの利用者の声を丁寧に聞き取りながら、 その声を各部署に的確に繋いでいくことにより横断的な施策展開を図ってい きます。
10		ぜんばん 全般	わたし じゃ うまれつききみみ きこえません しゅわ 私はろう者で、生まれつき耳が聞こえません。手話 ができるヘルパーさんが増えてほしいです。最近 は、高齢になり、体のことなど心配なことも増えて きました。高齢になっても、安心して暮らせるよう に、手話のできるヘルパーさんに来てもらいたいから です。	しゃ あんしん しょうがいふくし さーびす かいごさーびす りよう ろう者が安心して障害福祉サービスや介護サービスを利用できるために、 じゅうじしゃ しゅわ しゅうとく じゅうよう にんしき し かいさい 従事者に手話を習得していただくことは重要と認識しています。市が開催す る手話奉仕員養成講座等にご参加いただくよう呼びかけるなど、人材の育成 に努めます。

11	ぜんぱん 全般	手話で安心して介護保険のサービスが受けられるようにお願いします。私はろう者で、生まれつき耳が聞こえません。高齢になったので、これからのことが心配です。手話で安心して介護保険のサービスが受けられるようにお願いします。手話で自由にお話ができるとうれしいです。	ろう者が安心して介護保険のサービスを利用できるように、従事者に手話の技術を習得していただくことは重要と認識しています。事業所とも協力し、市が開催する手話奉仕員養成講座等にご参加いただくなど、人材の育成に努めます。
12	ぜんぱん 全般	聴覚障害があっても、就職できるように支援や配慮をお願いします。聴覚障害によりコミュニケーションがとりにくいということで、就職できないことがあります。筆談したり、手話通訳を利用したりするなどして、就職できるように環境を整えてほしいです。	聴覚障害のある方が、必要なコミュニケーション手段が確保された環境で、仕事ができるよう、企業などに対する理解啓発を図ります。また、就職に際して必要となる手話通訳については引き続き対応していきます。
13	ぜんぱん 全般	私はろう者ですが、他の障害がある人とも交流したいと考えています。そのような機会がほしいです。他の障害のことも理解を深めたいからです。	当時者団体の活動や、スポーツ、文化活動にご参加いただけるよう情報提供に努めます。
14	ぜんぱん 全般	盲ろう者は、耳が聞こえず目も見えませんので、情報が入らず困っています。そんな中で、盲ろう者同士が集まって交流することがとても大切です。そのために支援をしてほしいです。盲ろう者は、集まり交流することで、初めてお互いに情報が手に入るからです。ですが、コロナ禍の中、集まることができず、さらに深刻な状況です。	当事者団体の交流は、情報共有の面からも重要であると考えております。特に視覚と聴覚の重複障害のについては、コロナ禍であっても、直接出会うコミュニケーションをすることが必要になることを認識し、支援の方法を検討していきます。
15	ぜんぱん 全般	京都北部地域の地元の情報がほしいです。また聴覚障害者や盲ろう者にも分かりやすい方法で、情報を知りたいです。テレビや新聞だけでは分かりにくいので、集まって情報を得る機会がほしいです。ニュースなどでは、関東の情報は手に入りやすいですが、地元の身近な情報を知る機会が少ないと思う。また、テレビや新聞だけでは分かりにくいこともあるので、集まって情報を得たり、学び合ったりする機会が大切と思うからです。	市のホームページなどで公開する動画については、字幕や手話通訳での対応をしていきます。情報にアクセスするための学習や、学び合いの機会についても検討していきます。

16		ぜんばん 全般	こうきょうし せつ こうきょう かんきょう せい び 公共施設に公共Wi-Fi の環境が整備されていると がくしゅうかい 学習会などがやりやすくなるので、整備してほしい です。がくしゅうかい こうきょうし せつ へ や か り て かいさい 学習会を公共施設の部屋を借りて開催すると きに、い ん た ー ね ッ ト じょうほう えい ぞう が ぞう インターネットで情報を映像や画像で なが し な がら がくしゅう ば あい は な れ た ち い き か た が た 流しながら学習したい場合や、離れた地域の方々と こうりゅう か い ぎ じっし 交流や会議をオンラインで実施するときなどに、 Wi-Fi かんきょう ひつ よう 環境が必要になるからです。	し ちやうしゃ かんきょう せい び けんとう さい ご い け ん さんこう 市の庁舎の環境整備を検討する際のご意見として、参考とさせていただきます。
----	--	------------	--	--